

GDIPlusプラグイン バージョン1.1追加修正情報

By Thomas Maul, General Manager, 4D Germany.
Technical Note 05-06

(原題: Addendum GDIPlus PlugIn Version 1.1)

変更点

新しい4D 2004プラグインアーキテクチャに対応（4D 2003コンパチブル）。
スクロールバーサポート（プラグインリア）。
マウスホイールサポート（プラグインエリア、外部ウィンドウ共）。
新コマンドGet picture as blob。
巨大画像描画の高速化。
バグフィックス済。
リドロー、スクロールバー処理の改善。

プラグインエリア内でのスクロールバー

4D 2003以降であれば、領域をはみ出るピクチャには自動的にスクロールバーが表示されるようになった。

GDI_SetDisplayModeの引数を拡張

上記スクロールバーを制御するためのパラメータが追加された。

<code>error = GDI_SetDisplayMode(Area; Interpolation; Rotate; HorScrollbar; VerScrollbar)</code>
--

パラメータ	タイプ	説明
Area	倍長整数	プラグインエリア参照
Interpolation	倍長整数	スケーリング
Rotate	倍長整数	回転
HorScrollbar	倍長整数	1/表示、2/非表示
VerScrollbar	倍長整数	1/表示、2/非表示
error	倍長整数	エラーコード

InterpolationおよびRotateに引数として-1を渡すことができるようになった。その場合、設定を変更しない。HorScrollbar、VerScrollbarも同様に-1を渡すことができる。

マウスホイールサポート

プラグインエリア、外部ウィンドウ共に自動的にマウスホイール操作が使用できる。

新コマンド

Get Picture as Blob

```
theBlob = GDI_GetPictureBlob(Area; Format)
```

パラメータ	タイプ	説明
Area	倍長整数	プラグインエリア参照
Format	テキスト	形式
theBlob	BLOB	形式に変換された画像

この関数は、使用目的としてサムネイルをリストボックス（あるいは同種のオブジェクト）で表示する場合などを想定している。特に必要でなければ大きな画像をメモリに収納することは勧められない。対照的にGDI+オブジェクトはディスクから表示され、すべてメモリに収納されるわけではない。

サムネイルを扱う場合には、ピクチャ配列を使用したほうが効率的なこともある。はじめにオフスクリーンエリアを作成し、コマンドGDI_LoadPictureFileで画像を読み込む。コマンドGDI_ConvertToThumbnailで縮小してサムネイルに変換し、続いてGDI_GetPictureBlobと4D PackのAP Read Picture Blobで4Dのピクチャに変換して使用する。BMP形式に変換する場合はQuickTimeに依存しなくてもよい。

引数のFormatに使用できる値についてはコマンドGDI_SavePictureFileのドキュメントを参照。

4D 2004プラグインアーキテクチャ

新プラグインは、Windowsで"GDIPlus.bundle"というフォルダのように表示される。これは従来のWin4DXフォルダではなく、PlugInsフォルダに置く必要がある（4D 2004アップグレードマニュアル参照）。コンパイルを可能にするためにMacOSXでも表示されるようになったが、MacOSで実際のプラグイン機能が使用できるわけではない。

4D 2003にインストールする場合は、GDIPlus.bundle/Contents/Windowsの中身をWin4DXフォルダに置く。4D 2003（Mac OS X）の場合は、"GDIPlus.bundle"全体をMac4DXフォルダに置く。